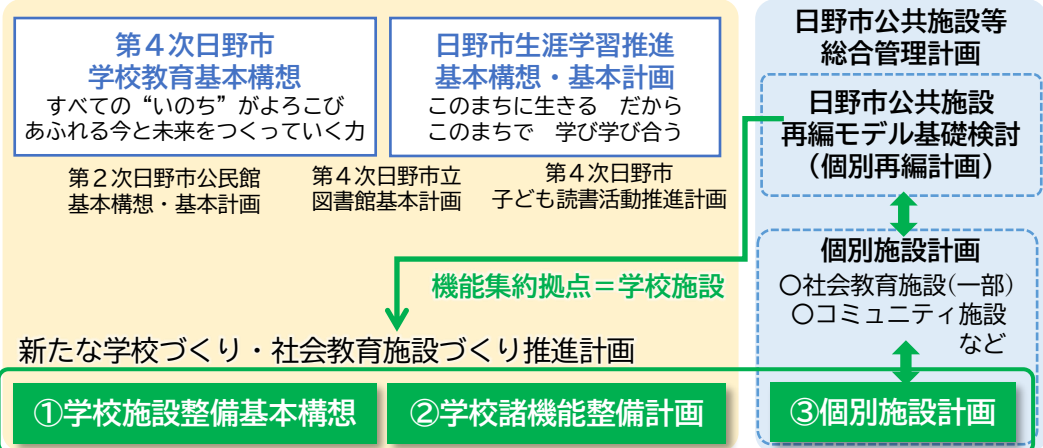


新たな学校づくり・社会教育施設づくり推進計画【概要版】

1. 推進計画の目的

- 児童生徒数の減少や学校施設の老朽化、学習指導要領の改訂等の背景を受け、子どもたちに充実した教育環境を整える。
- 新しい時代に求められる学習空間の実現を目指す。
- 学校教育のみならず、地域が求める公共施設としての機能や役割も付与した施設整備の在り方も整理する。

2. 推進計画の位置付け



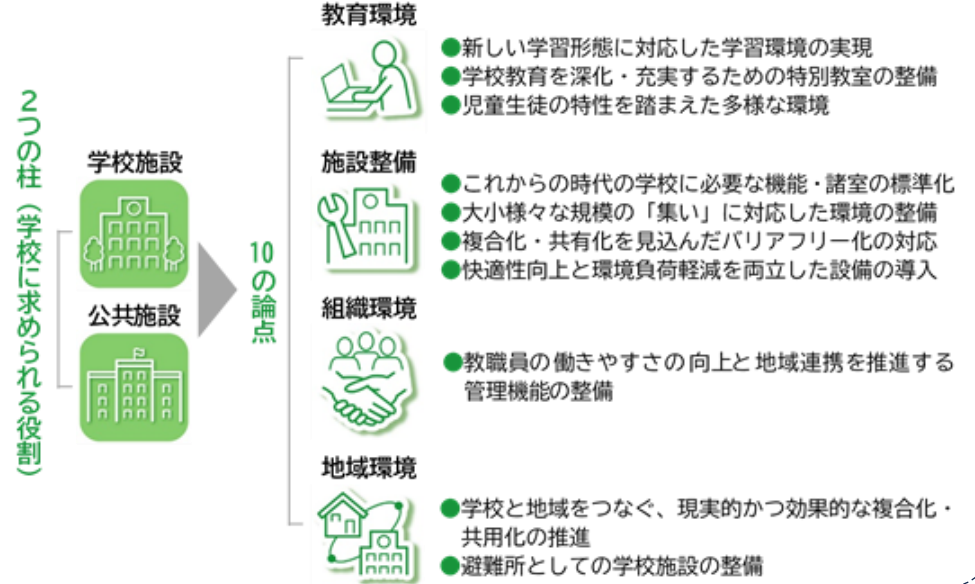
学校の適正規模・適正配置の必要性等検証は、「日野市立学校適正規模、適正配置等検討委員会」の設置により行う。

3. 児童生徒数、学級数の推計

- 2024年時、児童数9,309人、生徒数4,318人
- 2050年には2024年に比べ児童数15.1%、生徒数2.0%の減少
- 大半の小中学校で2050年度までに現状より学級数が減少する見通し
- 大規模校（25学級以上）は豊田小のみ
- 小規模校（11学級以下）は日野三小、旭が丘小、夢が丘小、七生緑小、日野三中、日野四中、三沢中、平山中の見通し
- 大規模校、小規模校では、施設の適正配置等について検討が求められる

4. 日野市立学校の課題、論点

- R4年3月文科省「新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方について最終報告」の5つの柱「学び、生活、共創、安全、環境」を踏まえ、日野市では「2つの柱と10の論点」をベースに論点を集約
- 新しい時代の学びに求められる学習空間を土台として、学校を利用するすべての方々にとってのウェルビーイングを目指す

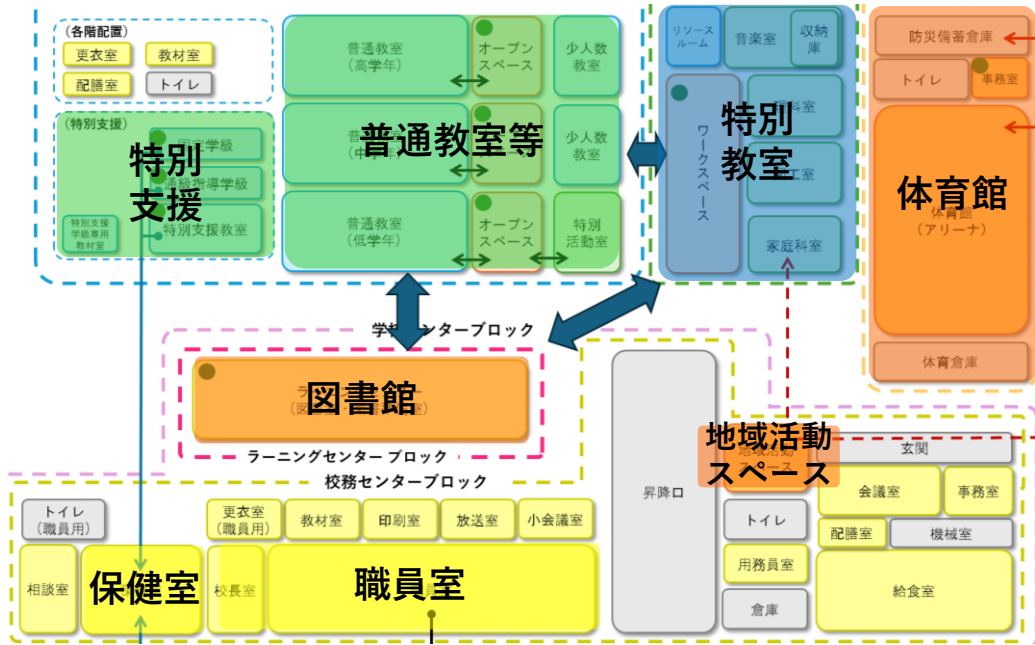


5. 施設構成や機能の基本的な考え方

- **ラーニングセンター（図書館）**：学校の中心に配置。読書・学習・情報の3つの機能を有する。
- **特別支援学級、ステップ教室**：通常学級の児童生徒との交流動線がありつつ安全管理上の配慮もする
- **校務センター（職員室）**：リラックスやコミュニケーションがしやすく効率的で働きやすい空間、補助スタッフ等も利用できる共有スペース、児童生徒が気軽に相談しやすい設え
- **体育館**：避難所機能確保のため、防災倉庫も設置

- **特別教室**：ワークスペースを新たに設け、教室の兼用化に配慮。可能な範囲で地域開放を検討。地域開放を検討し地域活動スペースとの機能連携も図る。
- **地域活動スペース**：社会教育施設として専有するスペースを配置、教育活動との親和性等を考慮し、学習や交流等の目的に応じられる機能を整備。特別教室と一体的利用、災害時の有効活用も考慮。
- **クールダウンスペース**：児童生徒が落ち着くための居場所となるスペースを適所に配置

図1：小学校の施設構成の基本的な考え方（イメージ）



※諸室の構成や機能連携のイメージで、スペースの大きさや位置関係を決定するものではない。

<普通教室廻り 小学校>

- 教室前面に6m以上の幅のある**オープンスペース**を配置
- オープンスペースは、教室の拡張機能や学年単位の学習活動など多様な学びに対応
- 少人数教室は普通教室とのまともに配慮して配置

<普通教室廻り 小中共通>

- 教室は、8.1m×8.4m（68㎡）以上の面積を標準
現在、7.4m×8.5m（63㎡）
- 収納スペースは教室、オープンスペース、多機能スペースに配置

<普通教室廻り 中学校>

- 教室前面の廊下幅を3m以上とし、**交流や休憩スペース、学習スペースの機能**を設置
- 普通教室の間に設ける**多機能スペース**は、生徒の滞留・交流・自習など、様々な活動に対応
- 多機能スペースは、少人数教室や学習発表の場等にも活用可能。

図2：オープンスペースの空間イメージ（小学校）

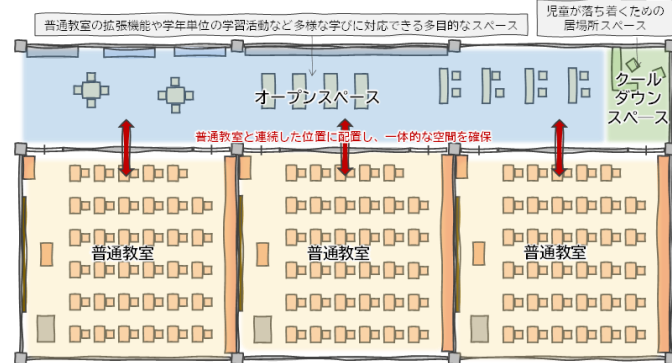
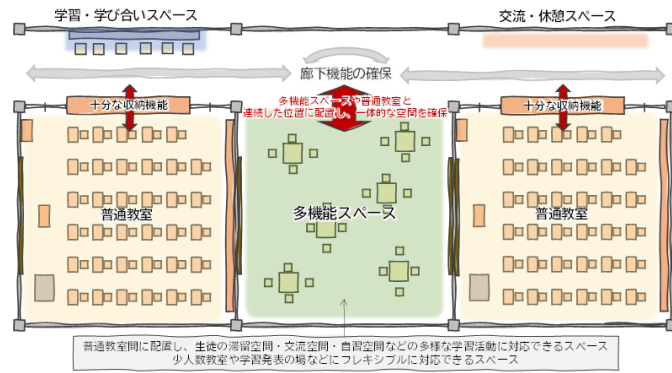


図3：多目的スペースの考え方イメージ（中学校）



新たな学校づくり・社会教育施設づくり推進計画【概要版】

6. 個別施設計画策定の目的等

- 厳しい財政状況の中、老朽化が進んでいる学校施設の維持管理及び整備を計画的に実施し、学校施設に求められる機能を確保
- 基本構想、整備計画に位置付けられた施設づくりの実現化
- 計画期間は40年間（2025～2064年）

7. 学校施設の現状

- 小中学校25校の施設は118棟、約174,000㎡
- 小中学校施設の約7割が旧耐震基準（昭和56年以前建設）の建物
- 築50年以上の建物は37%を占める。
- 大半の学校が、コンクリート強度の良好な校舎棟、低い校舎棟が入り混じっている状況
- 劣化状況調査では、大半の学校で老朽化が進行

学校名	校舎棟数	コンクリート					床面積 ㎡	築年数	劣化状況評価						
		強度 N/mm ²			中性化 深さ mm				屋上	外壁	内装	電気	機械	健全度	
日野一小	4	11	20	弱	17	2.8	5,375	42~61	C	C	D	C	C	29	
豊田小	5	28	25	23	新	新	4.6	8,756	2~56	B	B	C	C	C	53
日野三小	5	15	23	23	19	14	5.2	6,803	49~57	C	C	C	C	C	40
日野四小	5	22	28	新	20	新	3.4	5,708	14~59	B	C	C	C	C	43
日野五小	4	24	31		新	新	4.3	7,378	8~56	C	B	C	B	B	59
日野六小	4	32	25		18	22	30.4	6,819	50~60	C	C	C	C	C	40
潤徳小	5	24	27	20	12	新	27.4	6,010	17~59	C	C	C	C	C	40
平山小	2	39			34		5.7	7,467	16	B	B	B	B	A	78
日野八小	4	26	31		15	52	3.3	6,660	17~55	C	D	D	C	C	20
滝合小	2	14			18		7.1	6,732	52,53	B	C	B	B	B	65
日野七小	4	19	23	34	新	40.9	5,593	41~51	D	C	B	B	B	59	
南平小	3	27	18		28	3.4	6,114	43~50	C	C	C	C	C	40	
旭が丘小	3	20	25		27	2.7	6,154	42,47	D	B	C	C	C	48	
東光寺小	3	37	26		38	10.4	5,840	17,45	B	C	B	C	C	56	
仲田小	2	28			40		3.6	4,845	18,40	C	C	C	B	B	49
夢が丘小	1	23				2.2	4,879	47	D	B	C	C	C	48	
七生緑小	4	31	40		24	新	5.4	6,213	15,44	B	B	C	C	C	53
日野一中	1	47					1.9	8,648	15,58	B	B	B	B	B	75
日野二中	6	36	17	26	43	新	新	95.0	7~60	B	B	C	B	B	62
七生中	6	18	新	新	20	19	新	2.2	17~58	C	C	C	B	B	49
日野三中	5	20	23	30	新	新	4.5	8,815	34~53	C	B	C	C	C	50
日野四中	4	18	新	17		29	22.1	8,128	37~51	C	B	C	C	C	50
三沢中	7	36	41	39	新	新	新	新	17~47	C	B	C	C	C	50
大坂上中	2	36		29			21.4	7,941	41,44	C	B	C	C	C	50
平山中	2	26		新			21.9	7,461	32,43	C	C	C	C	C	40

凡例：コンクリート強度／
 :13.5N/mm² 未満  13.5～21N/mm²
 :21～30 N/mm²  30 N/mm² 以上
 新 :新耐震基準の建物。強度未調査につき  で表示
 弱 :調査時にもろく測定不能であった建物。
 中性化深さ／各建物棟で最大値を記載。10～30mm:  30mm以上: 
 健全度／～40点:  41～75点:  75点以上: 

8. 学校施設の整備に関する基本方針

- 事後対応修繕から予防保全改修へシフト：事後対応での応急的処置が日常化→予防保全的観点から改修等実施へ
- 厳しい財政状況下での整備費の確保：学校施設の整備時期が集中→整備費の平準化や抑制を図る
- 基本構想・整備計画の実現：ビジョン実現には面積拡充も必要→全部改築以外で、一部改築＋改修の手法も採用し、既存校舎現代化図る
- 個別改修の着実な進行：今後も個別改修は必要→本計画の整備内容を先行化する位置付けで、事業化を図る
- 公共施設再編に向けた連携：学校は地域住民の活動拠点として活性化が必要→改築や改修時に個別再編計画との連携を図り縮充を推進

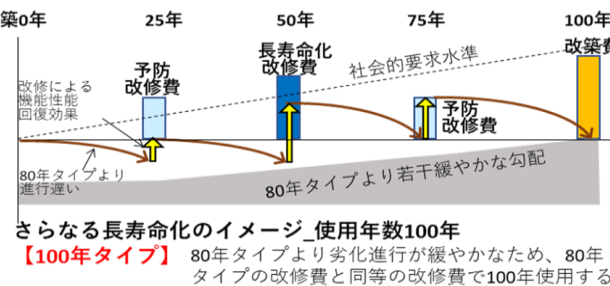
<建物使用年数>

- 鉄筋コンクリート造・鉄骨造ともに80年を基本
- 建物長寿命化をより一層促進する観点からコンクリート強度の把握できた建物は、強度の区分により設定

コンクリート強度	建物使用年数
21N/mm2以下	65年
21～30N/mm2	80年
30N/mm2以上	100年
不明な建物	80年

<改修周期>

- 20年または25年周期で、大規模改修を実施
- 大規模改修は、予防改修、長寿命化改修を基本

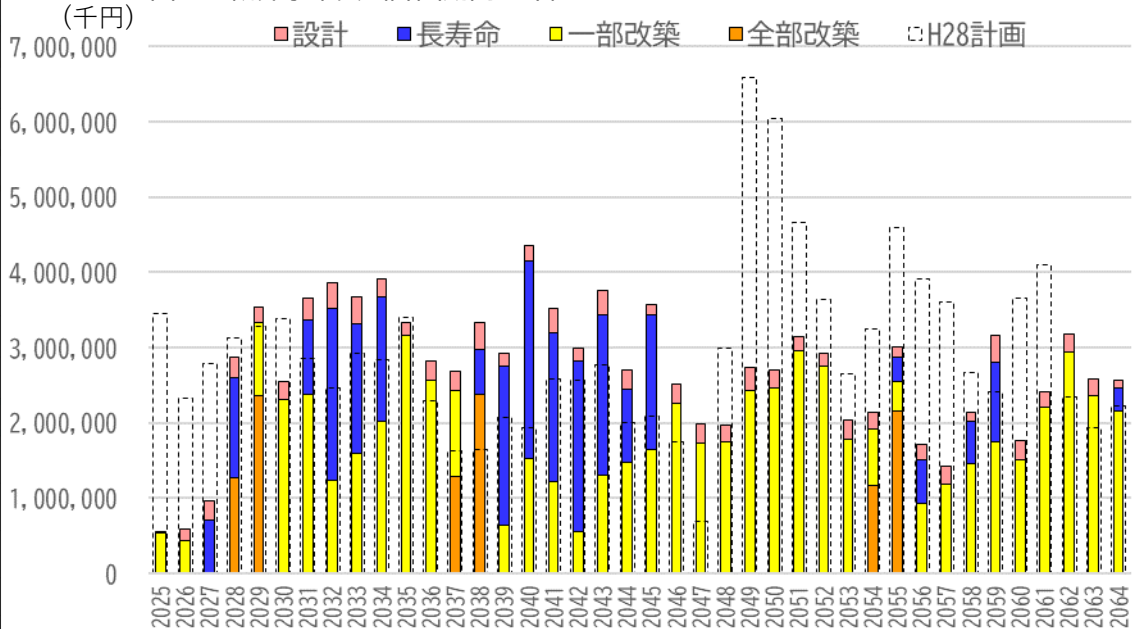


9. 概算事業費、整備スケジュール（短期）

<概算事業費の概要>

- 計画期間(2025～2064年_40年間)の事業費計：約1,083億円 27.1億円/年
- 短期(2025～2039年_15年間) の事業費計：約 413億円 27.5億円/年
- 中期(2040～2054年_15年間) の事業費計：約 431億円 28.7億円/年
- 長期(2055～2064年_10年間) の事業費計：約 240億円 24.0億円/年
- (参考)H28年計画 2025～2064年の事業費計：約1,182億円 29.6億円/年

図4：概算事業費（計画期間40年）



10. 今後の課題

- 各校整備の早期実現：整備すべき内容の優先性を考慮し、個別改修等により早期実現化の検討が必要
- 計画（特に短期）の着実な実施：庁内合意形成の上、短期15年間は特に着実な実施を図る
- P D C Aによる進行管理：定期的なPDCAにより計画実行性を高めていく
- 建物躯体の詳細調査、耐力度調査の実施：建物躯体の強度等の調査情報を蓄積しさらなる長寿命化の推進、改修内容の合理性向上を図る
- P F I、リース等の整備手法の検討：PPP/PFI手法の導入検討、設備機器更新時でのリース等手法の検証を実施

<整備費単価の設定>

項目	整備費単価	
改築	校舎：416,188円/㎡ (7,000㎡想定の場合)	体育館：431,805円/㎡ (1,200㎡想定の場合)
長寿命化改修	校舎：307,682円/㎡	体育館：267,208円/㎡
予防改修	校舎：92,727円/㎡	体育館：94,984円/㎡

図5：各学校の整備スケジュール（短期15年）

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	整備費 単位 百万円
年度	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034	2035	2036	2037	2038	2039	
日野第一小	全改築/設計・工事															3,951
豊田小	一部改築/工事															995
日野第三小	一部改築/設計・工事															3,015
日野第四小	一部改築/設計・工事															3,534
日野第五小	長寿命化改修設計・工事															1,182
日野第六小	一部改築/設計・工事															2,753
淵田小	一部改築/設計・工事															3,462
滝合小	全改築/設計・工事															3,992
南平小	長寿命化改修設計・工事															2,177
東光寺小	長寿命化改修設計・工事															1,809
夢が丘小	長寿命化改修設計・工事															1,392
七生緑小	長設計															22
日野第二中	一部改築/設計・工事															2,848
七生中	一部改築/設計・工事															3,491
日野第三中	一部改築/設計・工事															894
三沢中	長寿命化改修設計・工事															2,994
大坂上中	長寿命化改修設計・工事															2,686
平山中	長寿命化改修設計															77
																41,275